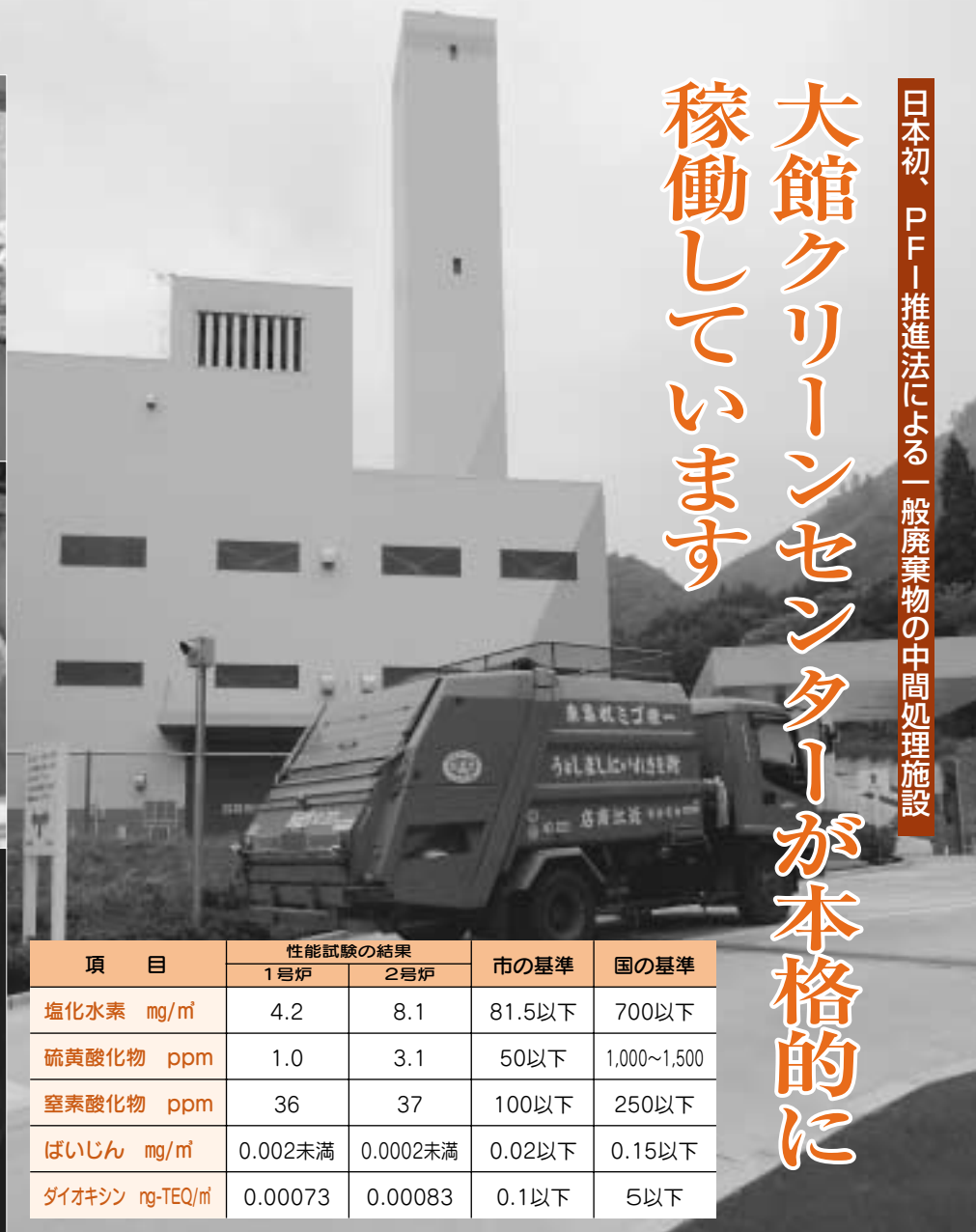


# 大館クリーンセンターが本格的に稼働しています



毎日トラック20台分のごみが運び込まれます



焼却すると約10分の1の灰になります



灰は高温で溶かされ、半分の容量になります

項目	性能試験の結果		市の基準	国の基準
	1号炉	2号炉		
塩化水素 mg/m <sup>3</sup>	4.2	8.1	81.5以下	700以下
硫黄酸化物 ppm	1.0	3.1	50以下	1,000~1,500
窒素酸化物 ppm	36	37	100以下	250以下
ばいじん mg/m <sup>3</sup>	0.002未満	0.0002未満	0.02以下	0.15以下
ダイオキシン ng-TEQ/m <sup>3</sup>	0.00073	0.00083	0.1以下	5以下

## ごみ処理の主役が稼働

新大館市のごみ処理を担う「大館クリーンセンター」が、8月1日から本格的に稼働を始めています。

この施設は、日本初のPFI推進法による一般廃棄物の中間処理事業であり、全国的にも高い関心を集めています。

事業は、施設の設計・施工から、今後15年間の運転・維持管理・補修までを一括して発注する形になり、公募の結果、大館エコマネジ株式会社（社長仁頃健太郎氏）が、受注しました。

環境先端都市を掲げる新大館市のごみ処理を先端技術で受け持つこの施設に、大きな期待が寄せられています。

## 年間2万6千トンのごみを焼却処理します

市の一般廃棄物処理実施計画では、平成17年度の廃棄物発生量を約3万4千トンと見込んでいます。その内、燃やせるごみ

と破砕ごみの合計が2万6千トンで、これが大館クリーンセンターで処理されることとなります。

## 毎日20台以上のトラックがごみを搬入

運用計画によると、年間運転日数は310日、処理予定量は2万6千トン（1日当たり約84トン）となっています。

この施設の最大処理能力は、24時間で90トン、365日運転すると、3万2千トンを超えるごみを焼却できる計算になります。しかし、ごみの中身はさまざま、熱量の違う材質のものが混在すること、点検整備のために運転停止する時間も必要のため、実際の処理量は若干少なくなります。

現在、毎日4千トントラック20台を超えるごみが運び込まれており、このままでは運転日数が増やさないで処理しきれないのではないかと心配されているほどです。

## PFI (Private Finance Initiative)

公共施設等の建設、維持管理、運営等を民間の資金、経営能力及び技術的能力を活用して行う新しい手法です。

民間の資金、経営能力、技術的能力を活用することにより、国や地方公共団体の事業コストの削減、より質の高い公共サービスの提供を目指します。

英国など海外では、既にPFI方式による公共サービスの提供が実施されており、有料橋、鉄道、病院、学校などの公共施設等の整備等、再開発などの分野で成果を収めています。